



公明こうべ

2026年
vol.2

発行：公明党神戸市会議員団 神戸市中央区加納町6-5-1

<http://www.kobe-komei.net>



○ 不妊去勢済みのしるし（V字カット）

獣医師会はじめ自治会、婦人会などが協力

この条例は神戸市獣医師会をはじめ「地域ネコ運動」の団体、動物愛護団体、自治会、婦人会、フェリシモ、ネスレ日本などの協力を得て運営されています。

ノラ猫の問題の第一は公衆衛生です。人とネコ共通の病気（※人畜共通感染症）の防止が第一ですが、ノラとはいえ猫の命を大切に考えることは人の命を大切に考える社会につながります。

次ページにあるように、関係者の皆さまのおかげで概ね目標を達成することができました。

※人畜共通感染症
動物との接触等による人への感染症。ネコの場合、敗血症の危険のあるパスツレラ症や高熱・嘔吐・意識障害を起こすSFTSなどがある。

この問題を解決するため公明党市議団は、ノラ猫の不妊・去勢手術による繁殖制限の推進や保護猫の譲渡活動を進め、ノラ猫による被害の解消と殺処分ゼロを目指して全国唯一の「人と猫との共生に関する条例」を実現しました。

公明党が条例を提案



「神戸市人と猫との共生に関する条例」
イメージキャラクター「みにゃと」

10年前、自治会、婦人会などからノラ猫のふん尿や鳴き声などの苦情が数多く寄せられ、また動物愛護団体からは市が年間千頭をこえるネコを殺処分していることが問題視されていました。

ノラ猫の殺処分をゼロに！

「人と猫の共生条例制定」から10年――

クマ出没に警戒 山林への立ち入りは慎重に 監視カメラを200台増設

北区道場町で6月にツキノワグマが確認されたことを受け、公明党市議団はクマ対策の強化を求めました。市は、AI監視カメラを200台増設し、有馬温泉周辺に60台を新設するとともに、市内への侵入ルートとなる三田市・宝塚市との境界付近では90台から130台へ増設する方針を示しました。また、出没時のプッシュ型配信や公式LINEなどを活用した情報発信も検討しています。

7月に2度目の目撃情報が確認されたことから、周辺住民に対し、山林や草むらへの立ち入りや夜間・早朝の外出を控えること、生ごみを屋外に放置しないことなど、被害防止に向けた注意喚起を行っています。



クマを見かけた場合は、神戸市鳥獣相談ダイヤル
078-333-4408まで

かわいい外来種 でもその行動が 自然を変えてしまう

海外から持ち込まれた動植物の中に、日本の生態系に影響を及ぼすものがあります。「かわいいから」「かわいそうだから」と自然へ放してしまうことが、在来の動植物を守るうえで大きな課題となっています。

例えば、ヌートリアはカピバラに似た愛らしい姿ですが、河川や農地で農作物や植物に被害を及ぼすことがあり、生態系への影響が懸念されています。神戸の豊かな自然を未来へつなぐため、外来種を「捨てない・放さない・広げない」ご協力をお願いします。

神戸市は、実際に外来生物を見る機会やその問題について知ることが少ない中、自治体初の外来生物に特化した啓発施設として、令和4年8月に外来生物展示センターをオープンしました。



ヌートリア



アメリカザリガニ

ミシシッピガメ



外来生物
展示センター

市政へのご意見・ご相談は下記の各区所属議員にお問い合わせ下さい。



東灘区

岩佐 健矢

TEL.080-7994-4645
iwasa.kenya@gmail.com



灘 区

高瀬 勝也

TEL.080-6209-7704
takase.katsuya@gmail.com



中央区

萩原 泰三

TEL.080-7994-4627
hagiwara.taizo@gmail.com



兵庫区

菅野 吉記

TEL.080-6209-7711
yoshinori@sugayan.jp



北 区

徳山 敏子

TEL.080-6209-7712
toshikotokuyama@gmail.com



北 区

堂下 豊史

TEL.080-4363-9251
doshita.toyoji@gmail.com



長田区

坂口 有希子

TEL.080-7674-6456
sakaguchi.akiko2022@gmail.com



須磨区

門田 まゆみ

TEL.070-3182-6213
kadota.m.komei@gmail.com



垂水区

壬生 潤

TEL.080-6209-7707
mibujun@gmail.com



垂水区

細谷 典功

TEL.080-7674-6455
hosoya.kobe@gmail.com



西 区

吉田 謙治

TEL.080-6209-7700
yoshida.kenji@gmail.com



西 区

宮田 公子

TEL.080-7674-6451
kimikomiyata0120@gmail.com

人と猫の未来を変えた10年 — 共に取り組んだ方々のことば —

ネスレ日本株式会社
ピュリナ ステークホルダー&イベントコーディネーター
太期 由美子



— 御社の役割は —

もともと弊社ピュリナ ペットケア事業部の3つの存在意義の1つに「ペットと人の共生社会」を掲げて活動しており、参加しない理由はありませんでした。

行政と住民主体の保護団体など、さまざまな立場の間をつなぐ橋渡し役です。「ネコのバス」保護猫譲渡会の開催や* TNR時のペットフードの提供をはじめとする啓発活動など、できることを通じて、それぞれの力を結びつけたいと考えています。

— 社内での評価はいかがですか —

当初は民間企業の1つとして、期待された役割を果たせるのかといった声もありましたが、活動を継続する中で本協議会の構成団体であることで実現できた活動やプロジェクトもあり、官民一体となって取り組む大切な事業の1つになりました。

神戸市にはこの取り組みを成功事例とし

て他地域にも発信し、日本全体のペットに関するリテラシー向上につなげていきたいです。

神戸市獣医師会会長
中島 克元



約10年前、公明党市議団が地域猫活動の必要性を理解し、私たち獣医師会と協議を重ね、条例制定と予算化を実現してくださいました。獣医師会だけでは絶対にできなかったことで、本当に感謝しています。

— 神戸市の取り組みの特徴は —

行政、獣医師会、ボランティア団体、地域住民が一体となって取り組んだことが一番大きかったですね。対象地域を決めて集中的に* TNRを行う「神戸方式」によって、これまで約2万頭の手術を実施し、ノラ猫は大きく減少しました。

— 今後の抱負は —

動物には人の心を癒やす力があります。保護猫活動だけでなく、動物とのふれあいを通じて福祉の分野にも貢献できる仕組み

をつくり、人にも動物にも優しい神戸を目指していきたいと思っています。

NPO法人神戸猫ネット理事長
杉野 千恵子



— 条例ができる前はどのような状況でしたか —

地域猫活動への一般の理解も少なく、ボランティアだけで捕獲や手術にかかる費用も工面し活動していました。行政に相談しても制度がないから動けない。ノラ猫の苦情があれば捕まえて結局は殺処分。神戸市は殺処分でも全国ワースト3に入っていました。公明党さんにノラ猫の条例づくりに協力してほしいと言われたとき、こんなに早くここまで踏み込んだ条例ができるとは思っていませんでした。

— 条例で一番変わったと感じることは何ですか —

それは行政と市民が同じ方向を向いて取り組めるようになったことです。条例で「推進協議会」を設け、行政、地域、ボランティア、地元企業が協力できるようになりました。ノラ猫も確実に減り、地域の理解も深まりました。

この条例は猫好きのためだけではありません。猫が嫌いな人や猫に困っている人のための条例でもあります。猫を増やさず、ふん尿や鳴き声などの問題を減らすことで、地域全体が暮らしやすくなる。それがこの条例の本当の目的だと思っています。

— 今後の課題は何でしょう —

一番心配なのは、活動を支えるボランティアの高齢化です。餌代や医療費も上がり、活動を続けること自体が年々大変になっています。また、多頭飼育問題はボランティアだけでは解決できません。福祉とも連携しながら行政が主体となって取り組んでいくことが必要です。条例がこの10年で神戸を変えたことは間違いありません。神戸が見本となり他の地域へも展開していけばと願っています。

神戸市婦人団体協議会副会長
高尾 ひろ子



— ノラ猫の苦情がたいへんだったとか —

10年以上前、「ノラ猫が庭にフンをして困る」「ノラ猫の鳴き声がうるさい」「勝手に

餌やりをやめさせて」といった苦情が婦人会に多数寄せられ、毎年神戸市に対策の要望をしてきました。がなかなか解決されませんでした。

— 条例ができていかがでしたか —

公明党のみなさんが獣医師会さんと協力してノラ猫を減らすための条例をつくられ、ノラ猫の捕獲、不妊・去勢を進める協議会に婦人会も参加しました。条例ができて行政の動きも活発になり、地域として企業のみなさんと協力して市民の課題解決に取り組んだことはすばらしいことです。

— 市への要望は —

運動を始めて10年でノラ猫の数は大きく減り、かつて年間1000頭あまりの殺処分も今やほぼゼロに。ノラ猫の苦情もほとんど聞かれなくなりました。これほど早くここまで減るとは思いませんでした。

ただ、地域猫活動の目的や不妊・去勢手術、適切な餌やりなどの取り組みを十分に知らない市民もまだ少なくありません。今後もボランティアの皆さまが安心して活動できるよう、議会や行政には地域猫活動の一層の周知・啓発に取り組んでいただきたいと思っています。



猫の殺処分数
約 **99.5%減**
(2012年 1,393匹 → 2025年 7匹)

猫の譲渡数
累計 **1,448匹**
(2017年～2025年)

猫の不妊・去勢手術
累計 **16,910件**
(2017年～2025年)

「こうべ動物共生センター」って何？



ただ今飼い主募集中

こうべ動物共生センターは、2021年10月「しあわせの村」(神戸市北区)に設けられた動物愛護施設です。「人と動物との関係を大切にし共に暮らす」という思いを込めて、動物関係の公的施設で初めて「共生」センターと名付けられました。

神戸市には動物管理センターがありましたが、これは保護犬猫の収容・管理・殺処分を行う動物管理が中心の施設でした。

しかし、「神戸市人と猫との共生に関する条例」制定を契機に動物愛護の機運が高まり、これに込めて公明党市議団がしあわせの村に動物愛護施設の設置を提案し、こうべ動物共生センターの設置が決まったものです。

現在、同センターでは、保護された犬猫の譲渡、啓発イベント、子ども向け飼育教室など人と動物の共生を広げるための普及・啓発と譲渡などを中心に、愛護から共生へ人も動物もずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市をめざし取り組んでいます。



フェスティバル
ホームページ

10月4日(日) しあわせの村にて
「こうべ動物共生
フェスティバル」
の開催決定!!